**沿　　　革**

★茅野市の沿革

当地は遠く、数千年むかし、など縄文文化の栄えた時代にはじまり、古代はこの地に大和朝廷によるの開通、東北征討の信濃軍団基地や、朝廷の御用馬を供給するとして山鹿の牧がおかれ、さらに古代から中世には諏訪大社上社前宮にが館（神殿）を構え、諏訪一円の祭政の中心となり、鎌倉街道も通ずるなど諏訪地方の政治・経済・交通・文化の中心地になっていました。

降って戦国時代となり、一時諏訪氏の領有をはなれ、武田氏が上原城（ちの）を拠点として諏訪地方一円を統治しましたが、慶長6（1601）年ふたたび諏訪氏の手に帰し、甲州街道が開かれ金沢は宿場町となり、江戸時代260余年間には、多くの新田村がうまれました。

明治4（1871）年7月、廃藩置県により高島県に属し、同年11月、高島県が統合されの管下になりましたが、明治9（1876）年8月に筑摩県が廃止され、信濃一円が、長野県になりました。

明治7（1874）年には、永明・宮川・金沢・玉川、翌8（1875）年には、豊平・湖東・泉野・北山・米沢の各村が組織され、明治22（1889）年町村制の施行により自治行政の基礎が確立されました。

その後、明治38（1905）年11月25日、鉄道中央本線（富士見・岡谷間）が開通し、これらの交通の発達とともに、八ヶ岳山麓の開発もめざましく、この地方の産業文化も発展の一途をたどります。

昭和23（1948）年5月3日永明村は、町制を施行し、『ちの町』と改称（日本で最初の平仮名の名称）し、同時に矢ヶ崎を本町、駅前を茅野町、旭町を仲町へ区称を変更しました。

また、昭和30（1955）年2月1日町村合併促進法に基づき、1町8ヵ村が合併して『茅野町』となり、昭和33（1958）年8月1日の市制施行により、『茅野市』が誕生しました。

　　　　昭和56（1981）年3月30日には、中央自動車道西宮線諏訪ルートが開通しました。

平成30（2018）年8月1日に市制施行60周年を迎え現在に至っています。